


ハンドボール

日本ハンドボール協会公式記録用紙

No. 9 No. A 大 (16名用)

A	山口県	宮崎県	B
合計	24	21	合計

大会名	第67回国民体育大会 清流国体		
H.24年	10月8日	(月)	場所 飛騨高山ビヤブアリーナ
種別	少年	男	女 回戦 第 回戦 準決 決 リーグ

A  7m TC 北林 健治 B

A 山口県	警 告	退 場	失 格	チームタイムアウト		得 点
				前半	後半	
役員A 倉谷 康彦				28	32	29 31
役員B 高杉 祐介						
役員C 東 康一						
役員D 藤本 靖雄						
1 川岡 靖弘						
2 助安 功成						
3 徳田 新之介				F	正	10
4 重岡 晃介				F	F	7
5 木下 昌紀				T	T	4
6 大久保 洋						1
7 佐竹 叶多						1
8 難波 隆太						
9 池岡 結希						1
10 白川 大貴						
11 山崎 将登						
12 佐藤 良光						
合計				12	12	24

B 宮崎県	警 告	退 場	失 格	チームタイムアウト		得 点
				前半	後半	
役員A 北林 健治				9	16	9 13
役員B 甲斐 貴雅						26 18
役員C 川野 敦史						
役員D 入江 彩華						
1 阿久根 寿由						
2 吉永 栄作				F	F	7
3 江藤 輝貴						
4 中野 光貴						
5 原 大陸						
6 津山 弘巳				F	T	9
7 勝田 原哉						
8 中岡 健太郎					T	3
9 中村 誠志					T	3
10 久保 慶彦					T	3
11 山元 郁也						
12 柴田 崇吾						
合計				10	11	21

タイムキーパー 西田 優奈 スコアラー 上林 大悟

マッチバイザー 越 誠 審判員 杉山 寛政 審判員 各務 宗春

A		前半		B		後半		B	
背番	結果	得点	時間	得点	結果	背番	結果	得点	結果
9	1	2	28			5	13	0	26
		5	16		①			9	59
		6	02	1	2	3	14	1	45
7	2	6	41			3	15	5	39
8	W	6	54					5	49
		7	17	2	9	4	16	6	52
3	3	8	20			3	17	9	07
3	W	9	00					9	13
3	W	4	41					9	35
9	W	9	55					10	39
		10	21	3	6			11	14
5	5	10	44					13	32
		10	44			3	18	15	21
		11	23	4	6			15	52
3	6	12	07					17	21
		12	18	5	10	7	S	17	24
4	7	13	21			3	S	18	07
		14	42	6	2			18	18
4	8	15	28			5	19	18	56
		16	17	7	2	4	20	20	50
3	S	16	17					23	00
5	9	21	37			6	21	23	37
		22	26	8	8	3	22	24	43
4	10	22	58					26	18
		23	36	9	6			26	33
		24	15		10			28	17
4	11	24	34			3	23	29	08
		24	39	10	2	①	29	31	
3	①	12	27	01		4	24	29	53
		28	32						

12 - 10 24 - 21

特記事項

ぎふ清流国体ハンドボール競技

ハンドボール 結果報告 No. 8

大会名	第67回 国民体育大会 ハンドボール競技				
競技日	10月8日 (月)	試合記号	Aた	回戦	準決勝
種別	少年男子	会場	飛騨高山ビッグアリーナ		
A (都道府県名)			B (都道府県名)		
山口県			宮崎県		
得点合計	小計		小計	得点合計	
24	12	前半	10	21	
	12	後半	11		
		第1延長 (前半)			
		第1延長 (後半)			
		第2延長 (前半)			
		第2延長 (後半)			
		7mTC			

【 戦 評 】

記載者氏名 下萩 浩明

インターハイ優勝の岩国工業主体の山口県に対しその大会で岩国工業に敗れた小林秀峰を主体とした宮崎県の対決となる準決勝。宮崎県のスローオフで試合開始。両チーム共6-0ディフェンスでスタート。1対0の5分16秒に重い展開の中、宮崎県が1回目のタイムアウトをとると、試合が動き出す。指令塔5番木下選手の巧みなボール回しからエース徳田選手と重岡選手が得点を重ねる山口県に対し、クイックスタートをはじめチーム全員でスピードあるオフェンスを仕掛ける宮崎県。17分過ぎ、8対7。双方固いディフェンスをくずしきれず、前半は12対10で終了。

後半に入ると、宮崎県の厳しいディフェンスに前半3得点に抑えられていた山口県の3番徳田選手が力を発揮し始め、9分08秒この試合の6点目を得点し17対12とする。13分34秒、宮崎県は、2番吉永選手がカットインを決め、17対15と追い上げる。18分07秒、山口県7番佐竹選手、3番徳田選手と2人が退場すると宮崎県は8番中岡選手がカットインを決め、18対18の同点とする。お互いの長所をつぶしあう厳しいディフェンスにより、ロースコアな展開になり、24分で21対19。27分、宮崎県は4-2ディフェンスに切り替え、反撃を試み、28分20秒、22対21と1点差に追い上げた。しかし29分10秒、山口県徳田選手が23点目を決める。準決勝にふさわしい息詰まる熱戦は、力強いバックプレイヤー3人を擁する山口県が、24対21で勝利した。